
関東カルテット カリンファイター

com

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

関東カルテット カリンファイター

【Nコード】

N3351Z

【作者名】

com

【あらすじ】

いつもと変わりのない生活の中、社会の負け組達と低ルートのしよぼい博打、低予算の食事、3日に一回の銭湯・・・
回りから見れば可哀想な生活だった、そんなある日の出来事だった時は7月、家にいきなりスーツを着た男性が訪れた・・・
彼の名前は尾形と名乗った・・・
来た事情・・・それは借金の話だった・・・
時は少し戻るが昨年度の話だ、それはアルバイトが終わり帰ろうと思った途端から始まった悲劇、後輩である中山に「借金の保証人に

なつてくれ」と言われた、そして話の流れ的に保証人になってしまった。

だがしかし中山は尾形の話によると失踪したらしい、当時借りていた80万が今では一ヶ月5割複利で現在の借金、607万5000円になつていた……

勿論、そんな大金は払えるわけないし、実際どうすればいいのか混乱していた。

そんな中、尾形はある案をだした……

「4日の夕方6時に千葉駅の表口から直進で徒歩数分のところにあるオカルトグッズ店に來い」と言われた。

これから始まる悲劇は華鈴はまだ知らない……

そして華鈴は至福が訪れることも知らない……

第一話 7月2日 余談

最近疲れてきたんだ・・・疲れたところではない・・・

私は薄々自分が可哀想に見えてきた、本年度でアルバイトを辞めて、昔の友達とはテレビに出たり店をもったり結婚したり、去年はお母さんが居なくなつて・・・

考えてると自分は負け組に見えてくるんだ・・・いや負け組なんだ・・・

最近ではこんなことを考えてるとストレスが溜まるつて言うか、疲れると言うか・・・

今はアルバイトと一時的に趣味でやっていた万引き、スリ、集団強盗で集めたお金で生きているわけ・・・

奇跡的に一度も捕まったことはない、捕まりそうになつたけど（笑）しかしその軍資金のお金も残り13万ちよつとしか無い、子供の頃なら金持ちだ。

そのため強盗仲間と100円単位の低ルートのしょぼい博打をやっているのだが内容が薄くてつまらない・・・

ポーカー、大富豪、麻雀、チンチ口、神経衰弱・・・特別ルールも無い

今の時刻は11時、博打の時間は4時からだからすぐ暇・・・自殺だつてできる・・・

でもさあ・・・死にたいけどいざやろうつてなると出来ない、やっぱり何もできないチキン

私の名前は山本華鈴、23歳・・・

周りのみんなが幸せなのに自分だけが不幸になっている悲劇の女

勿論、現在の地点ではこれから先もつと酷いことになることもまだ知らない

そうだ昨日の勝利金1200円で買い物でもしようか、帰りには銭湯にも行こう……

疑問が出てきた……どこにしよう、ローソン、セブンイレブン、いやあえてファミリーマート……やっぱり迷う、距離も変わらな
いし……

30分が経過、結局のところ考えた挙句ヤオコーにした。

買うもの、セブンスター、ポテチ、カップラーメン……23に
しては最悪だな……

まあ気にすることはない、なぜなら独身だからな（笑）

沈黙、哀れに見える

じゃあ買い物済ませて、銭湯へ行こう

そんな私がいい気分の仲、悲劇を告げる悪魔的存在が近づいている
ことも勿論わかるかけがない。

第二話 尾形と名乗る悪魔

買い物も無事終わり、銭湯に向かう時だった・・・
目の前にカップルがいた、よくある光景のはずだった・・・

昔の友人、大場佑子だ、リア充爆発しろって言いたくなってきた・・・

「なあゆっこ、次はどこに行く？俺んち？」「ええ～アリオにいこうよ～」「昨日も行った気がするけど～」「ハハハハハハ」
そしてスルー、私の頭脳に殺気が突き刺さる・・・
耐えるんだ、こういうカップルは地獄に行くんだ・・・
いや落としてやる

多少事件があっただけど無事に銭湯についた、一番風呂？

久しぶりに幸せになった気がした、このまま幸せのまままでよかったのに・・・

まあ銭湯で2時間くらい時間を潰して今は3時半だ、博打の時間だしもどるか・・・

いつもと変わらない時間を過ごしているはずだった。(カップルは例外)

今日は私の家で麻雀をする予定だった。

今の時刻は3時50分27秒、悪魔の出現、そして至福へのカウントダウン・・・

ピンポン、最初は仲間が来たかと思った

窓を開けた時、目の前にはスーツを着た男性がいた

「こんにちは、山本さん」ポストにも名前が書いてないのになぜわかる・・・

「・・・」怖い、怖すぎる・・・

「あの今回は借金の事について来ました」借金？借りた覚えは無いが

「・・・借金なんて借りてないのですが・・・」正論

「あなた自身ではなく、中山さんの借金についてなのですが」中山・
・・そいつは昨年度、アルバイトの時に確か後輩としていた奴だ

「中山がどうなんだ」あいつは最近合ってない

「この話はあまり周りには聞かれたくないので家に上がってもいい
ですか?」どうやら彼はヤバい話を持ちかけている

「あの・・・どういう話なんですか・・・」疑問が出てきた、そも
そも名前を聞いてない

「ちよつと痛い話ですよ、しかし儲け話もあります・・・」痛い話
!?

「あ・・・あの、名前を聞いてないんですが・・・」とりあえず
痛い話は避けよう

「申し訳ございません、私の名前は尾形です」尾形・・・ん?名前
は?下の・・・

「まあとりあえず家に上がってください・・・」まあ下の名前は後
でいいや

4時を過ぎた、未だに仲間が来ない・・・

それにしても尾形・・・腕の筋肉が太くて怖い・・・

第三話 607

無音のアパート、尾形と私の二人つきり・・・

ピンポンとインターホンの音が聞こえた、窓を開けると仲間がいた

新井、草、八城の3人だ、家の前にベンツが止まっていたらしく誤解されていた・・・

「なあカリン・・・もしかして奪ったのか・・・」？だな（笑）奪えるならとつくに大金持ちだ・・・

「残念だが今は大事な話をしているんだ、麻雀を6時にしてくれな
いか・・・」ヤバい話だから1時間は使うだろう・・・

「ああ分かった、みんなにも報告しておくよ」いい仲間を持ったものだ・・・

そして3人は帰る・・・そして沈黙・・・

「あの・・・痛い話と儲け話、どっちを先に言いましょうか・・・」
痛い話を先にするとカジになってしまうからそこはあえて儲け話
からにしようか・・・

「儲け・・・話・・・から・・・お願いします・・・」流石に緊張する
な・・・

「儲け話と言うのは・・・四日の7時から始まる高ルートの賭博でし
て・・・」

「その高ルートって何円からなんだ？」10万とか言ったらぶつ殺
す！！

「あなたが賭け金を出すのではないのです・・・」賭け金を出さな
い・・・

「簡単にいえばあなたが競馬で言う馬になればいいのです」わ・・・
私が馬！？

「そうです、あなたが馬になって私達が投資をするんです」ちよつ
と面白そうだな・・・

「先に言いますが参加者は2000人を超えます・・・それを6日に分けて戦います」

「それで詳しいルールを教えてください・・・」ワクワクが押し押せてくる・・・

「それ以上の説明は主催者側が当日に発表されるので私も知りません・・・」知らない!!

「一様賭け金を取り分を説明しておきます」ルールより先に聞いとくべきだった・・・

「私達が投資する金額は10,000,000円です」一千万円・・・

「それで聞いた話では上位に入れば悪くてもあなたのギャンブルで80万は入ります」中山(笑)

「優勝すればギャンブルは600万は入る感じです・・・」感じ(笑)・・・

「上位に入れば私達も悪くても1,2倍・・・」1200万円・・・

「優勝すれば10倍と聞いてます・・・」一億!!

「ついでに一回戦で負ければあなたの借金は2000万を超えます・・・」え？

「我々の資金から出すわけにもいきません、あなたの資金から取ります」

「ふざけるな!!」なんで?ええ、負けたら地獄行きじゃないか・・・

「別にこの機会を破棄していいですけど、でもいいんですか?」・・・

「あなたの借金は普通の人でも一生返せません、団体で稼がない限り・・・」どうすれば・・・

「あなたはクズに等しい人間です、私は救済のためにこの案を出しているのです」

「もしもこの機会を逃したら次の機会までに借金は莫大な予算にな

ります・・・」

「本来は中山さんが払っていただければいいのですが、失踪したのです・・・」

「だから保証人である山本さんに頼んでいるのです」

「我々としてもお金を返してもらわないと困るのです・・・」

「どうですかいい機会です、負ければ私達もそれなりの代償は払います」

「ではラストチャンスです、あなたはやりますか・・・この最高の賭博を・・・」

どうすればいい・・・、でもうん良く2回戦連続で勝てればいいんだ・・・私、これでも握力は80kgはある、見た目と中身は違う・・・

・・・私なら勝てる!!

「やってやる、だが負けたらしつかりと代償はもらおう」これでいいんだ!

「わかりました、では明後日(4日)の6時に千葉駅表口から直進、徒歩数分のところにあるオカルトグッズ店に来てください、詳しい場所は私が教えます」

「では痛い話をしましょう」勝つ・・・絶対に勝つ・・・

「痛い話なんてどうでもいい、勝ってそんな話をナシにする・・・」

「いいことを言うじゃないか・・・では私は先に行きます、もしもその事が有りましたらこちらへ電話をしてください・・・では失礼します」名刺を机におき帰ってしまった・・・

あ!下の名前を聞くのを忘れた・・・まあまた今度でいいや

この時の私は勝機が沸いた・・・その瞬間ドアを叩く音が聞こえた・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3351z/>

関東カルテット カリンファイター

2011年12月11日16時46分発行